

後援会ニュース「しおかぜ」は街づくりのコミュニティ紙として皆さんの暖かいご支援をお願いします。ご意見をお聞かせください。



しおかぜ

日本共産党浦安市東部後援会
News

第33号

2009年12月11日
編集責任者 元木計文
047-355-8526
部内資料

廃止4年後
先送り?!

後期高齢者医療制度 すぐに廃止を!

約束守って
民主党!

来々4月には、最初の値上げが予定され、新たな軽減措置がとられたとしても平均的な厚生年金(21万円)を受給する単身者世帯で、年1万円、夫婦2人世帯では1万2千円の値上げになります。すぐに廃止することこそ、国民の願いに沿う道です。

制度続ければ、被害が
広がることは明らか

日本共産党は、参院予算委員会で小池晃参議院議員が後期高齢者医療制度をただちに廃止するよう政府に迫りました。小池晃参議院議員が「先送り」の理由をただすと、長妻厚労相は「老人保健制度に戻すだけでも2年かかる」と厚労省官僚受け売りの弁明。小池参議院議員は「長妻さんの口からそんなセリフが出るとは思っていなかった」とのべ、かつて民主党が即時廃止を主張していたことも示し、ただちに廃止を求めました。

官僚言いなりで困ります
日本共産党がただす

お年寄りを差別する後期高齢者医療制度。民主党は同制度の廃止を最優先に掲げていたはずなのに、廃止の「先送り」を言い出しました。公約どおりに廃止するべきです。

後期高齢者医療制度の問題は..

- ..2年ごとに保険料を見直し、際限なく値上げ
- ..年金から天引きで滞納者から保険証取り上げ
- ..診療報酬のカットなど医療内容も差別が

2010年 新春のつと



2010年参議院選勝利! 「建設的野党」の前進を目指し、恒例の「新春のつと」を行います。お知り合いの方お誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。みなさんの参加を、心よりお待ちしております。

1. 日時 2010年1月31日(日)
午後3時開会(午後2時30分開場)
2. 会場 文化会館 大会議室(3階)
3. 会費 1,500円
(中高生 500円、小学生以下・75歳以上無料)
4. 内容 後援会員の特技、日々の稽古・成果披露など
楽しく、元気の出る催しを企画中です。
5. 参加申し込み
市議会議員 元木 355-8526
井原 353-4730
美勢 354-9269

又はお近くの後援会員、党員までお申し込み下さい。

後期高齢者医療制度は、75歳という年齢だけで高齢者を差別医療に追いやる、現代の「うばすて山」です。きつぱりと廃止し、高齢者の窓口負担の軽減や国保料の引き下げなど拡充に踏み出すべきです。



参議院比例代表
予定候補

田村智子



市議会議員
元木 美奈子

高齢者からの電話 「医療費窓口負担を軽くして!」

先日の夜9時ごろ、我が家の電話が鳴った。電話はその日の朝、駅頭で市議会報告を私から受け取ったという男性の高齢者からだ。

話の内容は、私が議会の一般質問で後期高齢者医療について取り上げる事を知り、その時に医療費の窓口負担の問題も取り上げてほしいという訴えだった。この方は収入は年金のみであるにもかかわらず難病をかかえ、病院窓口負担は3割だという。お年寄りに3割もの負担を求める政治への怒りの声。しっかりと受け止めて臨まねば...。12月議会は16日に閉会します。

私（男性）の介護体験

第一回

美浜四丁目 伊那三郎

今回は書くという良いチャンスが与えられましたので、現在の私の状況を整理し、見直す機会にしました。内容は、1. 妻の病状と経過、2. 浦安市と単身赴任先の町とでの介護施設・体制の比較、3. これまで私達が工夫してきた事、4. 今抱えている問題点、5. 介護における心の葛藤、の予定です。介護の問題は、これからほんどの方が経験する問題だと思しますので、私の体験が参考になれば幸いです。

1. 妻の病状と経過

私は、本年（二〇〇九年）三月末に十数年に及ぶ単身赴任を終えて浦安に帰ってきた者です。妻も仕事を持っていましたが、原因不明の難病で体調がかなり悪くなり、今から四年ほど前に定年を待たずに退職し、私の単身赴任先に転がり込んできました。

まず、大学病院で病名を確定してもらったことにしました。病名が分かることはある意味で安心感をもたらす事ですが、その病気が不治の病で、対症療法しか打つ手がないとなると、何とも言えない気持ちになりました。病名を伝えた研修医が後で「病名を直接伝えるな」と上司に怒られた事を知りました。癌と同様、病名を聞き絶望的になってしまう患者が多いからだそうです。



【単身赴任先の兵庫】



妻の病気は、今からほぼ十年前、大きな字が書けない、字が下手になる事に始まって、歩くのが困難になり、車椅子生活から、ほとんど寝たきりになるという経過をたどりました。以上の症状から分かるように、運動に関与する脳細胞群が障害を受け、舌や喉の動き、呼吸に至るまで、ほとんど全ての「運動」に関与する筋肉の動きが失われていく病気です。

次回に述べますように、ショートステイ等の利用により、私は何とか介護をしながら仕事をし、無事定年を迎える事ができました。しかし、本年八月からは、妻は物を食べる事も、会話をする事も困難になり、十月に胃ろう設置の手術を行い、現在に至っています。（次号に続く）

私の故郷自慢

No. 2

◇阿波の徳島◇

ウエルかめ！阿波の徳島。鳴門海峡、大歩危・小歩危などが思いうかぶように、山と川と海の自然あふれる温暖な所です。西から東に貫く四国三郎・吉野川とその支流の清らかな流れには心和ませるものがあります。山桜が咲き誇る小高い山から一望する吉野川平野からは、自然の雄大さと人々の日々の営みが迫ってきて得も言われない気分してくれます。そんな気分になりたくて、年に二度ほど颯爽と原付バイクにまたがり有明からフェリーで帰ります。そして、あちこちと走り回ってきます。春には、菜の花がよく似合う白い装束のお遍路さんに出会います。一番札所・霊山寺に始まる四国八十八ヶ所参りの発心の地でもあります。険しい地もある寺々巡りは、都会人の憧れでもあるのでしょうか。車、バス、バイク、自転車そして究極の「歩き」と足は様々です。時間をつくり一度出かけたものです。



そして「阿波踊り」です。昔は、隣近所 みんなが三味線や太鼓を持ち出し、あり合わせの浴衣を着て、何かあればすぐ踊りとなりました。



様変わりの今は、色あでやかなそろいの浴衣で「連」をつくり徳島市などだけで旧盆に踊ります。それはみごとです。耳にすればお尻のあたりがむずむずしてくる独特のリズムは他に比するものがありません。また、夜目遠目、鳥追い笠の女性の白いうなじの色っぼさ、みんながみんなとてつもない美人に変身です。常設の「阿波踊り会館」で見ることができます。

朝ドラで聞く阿波弁は指導が行き届いています。やさしさと優柔不断の入り交じった故郷の気質を、居ながらにして味わっています。

元木 計文